

川とともに歴史・文化を育み、発展するまち中津

Nakatsu city that nurtures and develops history and culture together with the river



おくづか まさのり
奥塚正典

大分県中津市長に聞く

Interview to Masanori Okuzuka
Mayor of Nakatsu City, Oita Prefecture

聞き手：^{いもとこうじ}井元幸司＝国土交通省九州地方整備局
山国川河川事務所長

Interviewer : Koji Imoto,
Director of Yamakunigawa River Office,
Kyuusyu Regional Development Bureau, MLIT

【紹介市長との関係】

聞き手：本日は「川とわがまち」の市町村長リレーインタビューとして、岡山県瀬戸内市の武久市長様よりご紹介いただいた大分県中津市の奥塚市長様を訪問しています。早速ですが、瀬戸内市の武久市長とは、どのようなご縁があるのでしょうか。

市長：岡山県瀬戸内市の武久市長とは、瀬戸内海沿岸の107の市町村、11府県、国土交通省地方機関等があらゆる境を超えて一同に集まり交流・連携活動を行う「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」が出会いのきっかけであります。また、瀬戸内市と中津市がともに2014年大河ドラマ「軍師官兵衛」のゆかりの地であったことから、さらに交流が深まりました。



インタビュー風景

【中津市の紹介】

聞き手：それでは、中津市のご紹介をお願いします。
市長：中津市は、大分県の西北端に位置し、東は宇佐市、南西は玖珠郡・日田市、北西は福岡県に接し、北東は周防灘に面しています。

中津市の面積は491.53km²で、人口は約85,000人です。

中津市の城下町としての歴史は、1587年に黒田官兵衛孝高が豊臣秀吉から豊前6郡を与えられた後に、拠点を山国川河口部に移し、日本三大水城のひとつである中津城を築城したところから始まります。黒田官兵衛は、豊前入国当初、馬ヶ岳城（福岡県行橋市）を居城としましたが、山城では城下町づくりができないため平地に移すことを考え、天正16年（1588年）から中津城の築城を開



位置図

始しました。中津は、豊前の国のほぼ中央に位置し、周防灘に流れ込む高瀬川（山国川）に面しており、川を自然の堀として使える上、水陸交通の要地でした。また、広い平野によりこの地方有数の米どころでもあり、海運と商工業をpushさえるにはうってつけの場所でした。なお、黒田官兵衛は、激動の戦国時代にあつて、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三傑に使えた名参謀であることから、「希代の軍師」と言われ、中津城をはじめ、数多くの築城に携わつたことから「築城の名手」として知られています。



中津城（奥平家歴史資料館）

中津市は観光産業が有名であり、城下町中津に加えて耶馬溪があり、代表的な観光地としては、「競秀峰・青の洞門」や「羅漢寺」などがあります。

青の洞門は、耶馬溪を代表する名勝である競秀峰の裾野にあり、禅海和尚が掘つた洞門（トンネル）で、大正8年に発表された菊池寛の短編小説「恩讐の彼方に」で一躍有名になりました。禅海和尚は托鉢勧進によって資金を集め、雇つた石工たちとともにノミと槌だけで掘り続け、30年余り経つた明和元年（1764年）、全長342m（うちトンネル部分は144m）の洞門が完成しました。



青の洞門

羅漢寺は、日本三大五百羅漢の一つであり、荒々しい岩山、羅漢山の中腹に位置し、大化元年（645年）にイ



禅海和尚像



耶馬溪を代表する名勝 競秀峰



日本三大五百羅漢の一つである羅漢寺

ンドの僧、法道仙人が、この岩山の洞窟で修行したことから開基されました。境内には無漏窟（五百羅漢窟）があり、無漏窟には様々な表情をした日本最古の五百羅漢などが安置されています。

中津市の産業の歴史では、水陸交通の要地という観点から、紡績、鉄鋼、半導体、自動車とその時代時代の先端企業が立地を行っており、江戸から明治、大正を通じて独特の文化を育み、街は大いに賑わった事から、西の博多、東の中津と言われており、現在では、代表格としてダイハツ九州をはじめとする自動車関連の組み立て工場が立地し、福岡と並ぶ九州の拠点となっています。

こいで、こいで、こいで。
恋でもしたら
どうでしょう。

自然も素晴らしい食事も豊潤も併存も、
中津には、元気に動くスポットがたくさんある。
そんな中津での多彩な旅のアクティビティを
「な活」で楽しんでお楽しみください。
中津の「な活」が、あなたを元気にする。
訪れる人も、そうでない人も、
訪れる魅力がここにはあります。

中津の旅は、元気に動く旅。

な活
OITA NAKATSU

大分県中津市

メイズル那馬
サイクリング
ロード

誰かと一緒にいるより、
自然と一緒にいる方が、
きっと私は私らしい。

自然も素晴らしい食事も豊潤も併存も、
中津には、元気に動くスポットがたくさんある。
そんな中津での多彩な旅のアクティビティを
「な活」で楽しんでお楽しみください。
中津の「な活」が、あなたを元気にする。
訪れる人も、そうでない人も、
訪れる魅力がここにはあります。

中津の旅は、元気に動く旅。

な活
OITA NAKATSU

大分県中津市

那馬湖
アクアパーク

この家に来たら、
みんなかしくなる
気がします。

自然も素晴らしい食事も豊潤も併存も、
中津には、元気に動くスポットがたくさんある。
そんな中津での多彩な旅のアクティビティを
「な活」で楽しんでお楽しみください。
中津の「な活」が、あなたを元気にする。
訪れる人も、そうでない人も、
訪れる魅力がここにはあります。

中津の旅は、元気に動く旅。

な活
OITA NAKATSU

大分県中津市

福澤諭吉旧居

「ハモは美容にいいから」
と言って、
ハモばかり食べている。

自然も素晴らしい食事も豊潤も併存も、
中津には、元気に動くスポットがたくさんある。
そんな中津での多彩な旅のアクティビティを
「な活」で楽しんでお楽しみください。
中津の「な活」が、あなたを元気にする。
訪れる人も、そうでない人も、
訪れる魅力がここにはあります。

中津の旅は、元気に動く旅。

な活
OITA NAKATSU

大分県中津市

ハモ料理

【川の歴史】

聞き手：中津市には、山国川や犬丸川が流れており河川と密接な関係があるのではないかと思います。奥塚市長の川にまつわる思い出やエピソードなどをお聞かせ下さい。

市長：小学生当時、田舎の小学校だった事もあり、時代的にほとんどの学校にプールがありませんでした。

プールに代わる泳ぎの場所として、家のそばを流れている犬丸川、JRの鉄橋下付近でよく泳いだ記憶もあります。また、海では中津干潟は遠浅のため、満潮時にしか泳げませんでした。川や海でよく泳いでいたものです。

先ほどご紹介しました中津市を代表する観光地であり、まず「競秀峰・青の洞門」では、川沿いにキャンプ場があり、目の前の川でよく泳いだものです、大きい岩があると、浅いところだと思っても急に深くなっており、「スリル・怖さ」といった川の醍醐味を感じていました。

高校生になると、山国川上流の山国町に友人が居たため、友人宅の直ぐ下にある、名勝耶馬溪の1つ「猿飛甌穴群」のあたりでもよく泳いだものです。

川遊びとして、フナや鰻をよく捕まえていました。フナは家の近くを流れる小さな農業用の水路で釣っていた事を鮮明に思い出せます。鰻は竹を切ったものを川底に仕掛けたり、石を積んでやぐら（通称「鰻塚」のこと）をつくり、鰻や魚を捕っていました。

自分が住んでいる周囲の田に取水している、本耶馬溪町に頭首工のある荒瀬井堰の用水路については、子供ながらに興味があり、水がどこから流れてくるのか、教えてもらった記憶が懐かしいです。

【川との関わり合い】

聞き手：中津市には山国川や犬丸川など多くの川が流れていますが、川との関わりについてお聞かせください。

市長：山国川の河川整備（改修工事）は、城下の洪水を防ぐことと、城下町の整備のため、慶長9年（1604年）中津城に入った細川三斎によって、大家川（今の蛭子川）を締切り、延長1kmにおよぶ金谷大築堤を設けた工事に始まっています。その後、享保2年（1717年）頃には、中津藩主奥平昌成が、現在の派川中津川河口に三百間の堤防を築いています。昭和19年9月には大規模洪水が発生して大災害を受けたため、昭和23年8月に本格的な改修工事が始まり、改修を進めてきました。昭和60年には耶馬溪ダム、平成2年には平成大堰が完成し、現在は、平成24年7月の九州北部豪雨を受け、床上浸水対策特別緊急事業が進められています。

山国川における水利用は、農業用水がその大部分を占め、その他に、水道用水、工業用水、発電用水にも利用されています。また、安定した水利用がなされ、魚類等の生息環境が維持されるように、耶馬溪ダム及び平成大堰により補給を行っています。なお、生活用水や農業用水等の水不足が危惧される場合は、「山国川中下流域水利用連絡協議会」を開催し、利水者の協力を得て取水量の制限、住民への節水協力の呼びかけや耶馬溪ダムによる湧水補給を行い、湧水被害を回避しています。また、犬丸川では、前田井堰や口井手井堰等の堰により取水し、灌漑用水として利用されており、古くより他水系からの導水や、溜池による灌漑も行われています。

山国川流域の約8割は耶馬日田英彦山国定公園に指定され、川沿いは名勝耶馬溪に指定されています。また、中流部には、耶馬溪橋、馬溪橋、羅漢寺橋等の石橋等のすぐれた文化財が存在し、耶馬日田英彦山国定公園に位置する国指定の名勝耶馬溪は、大分県の観光産業の中で

重要な位置を占めています。さらに、下流の中津川沿いには、福沢諭吉旧邸と並び中津市街地の観光スポットの中核をなす中津城があるなど、山国川沿いには、大分県を代表する自然景観や史跡文化財が点在しています。

山国川流域での観光としては、上流域の山国町で行われる「やまくにかかしワールド」が稲刈り後の田んぼで行われています。中流域の耶馬溪町では、夏に行われる「耶馬溪湖畔祭り」や耶馬溪ダムの湖面を利用した全国唯一の市営水上スキー施設である「耶馬溪アクアパーク」で水上スポーツや湖面遊覧が楽しめ、水上スキー・ウェイクボードなどの国際大会・全国大会が開催されています。同じく中流域の本耶馬溪町では「禅海ふるさと祭り」や無病息災・五穀豊穰を祈願する「青の洞門観光どんど」が青の洞門の河川敷で開催されます。下流域の三光では、山国川より取水している農地を利用した「三光コスモス祭り」。下流域の旧中津市内では山国川三口の井堰を完成させるために人柱になったという、お鶴と市太郎という母子の霊を慰めるとともに五穀豊穰を願う「鶴市傘鉾神事（大分県指定無形民俗文化財指定）」、最も海に近い流域では「中津祇園」など、伝統ある祭りやイベントが開催されています。

山国川が流れ込む中津干潟では、平成24年の九州北部豪雨後に中津干潟でシングルシードオイスター「ひがた美人」の養殖が始められ。本年度は約30万個の生産を予定しています、これも山国川の恩恵の一つだと思います。



禅海ふるさと祭り



鶴市傘鉾神事

【平成24年九州北部豪雨災害とその後の対応】

聞き手：平成24年7月の九州北部豪雨を受け、「床上浸水対策特別緊急事業」を中津市にもご協力いただき推進しているところですが、水害による被害状況とその対応についてお聞かせ下さい。

市長：平成24年7月の九州北部豪雨の際、私は大分県庁に勤めており、決して忘れることが出来ない思い出となっています。

九州北部豪雨は、日田市、竹田市、そして中津市を同時に襲った豪雨であり、詰めていた災害対策本部で見た山国川の激流のテレビ映像や、復旧に際して、広瀬大分県知事と現場を一緒に視察し、復旧に向けた要望を現場で受けた思い出が甦ってきます。

山国川での平成24年7月の九州北部豪雨は、7月3日と14日の2回洪水が発生し、戦後最大規模の洪水となりました。3日の豪雨では、中津市耶馬溪ダムで1時間雨量が86.5ミリ、14日の豪雨では、中津市山国町吉野で1時間雨量が65ミリに達し、観測史上1位を更新しました。山国川の下唐原観測所では、3日の豪雨で観測史上最高の7.46mの水位を記録しました。

この出水により、河川の至るところで越水し、浸水被害面積は約60haに及び、この2回の豪雨による延べ浸水家屋数は、床上浸水257棟、床下浸水125棟であり、中津市で甚大な被害が発生しました。

中津市では、人命を第一に全力を挙げ、住民に対する被害状況の収集、避難所の開設など、迅速な対応に当たりました。

このような中、国土交通省・大分県とのスムーズな連絡調整と情報交換が図られるなど、復旧に向けた支援をいただきまして、大変感謝しています。

また洪水の被害を最小限にするため、本年度より防災危機管理課を新たに設置して精力的に取り組んでおります。ハードはもちろんのこと、出水時・濁水時等の危機管理体制並びに防災情報の充実、水防・救助体制の強化、防災意識の啓発等のソフト対策も重要と考え、学識者、住民、関係行政機関が連携してソフト対策の充実も図ることとしています。

【河川に関連したプロジェクト】

聞き手：中津市では様々な形で河川を利用されていますが、河川に関連した地域づくりなどのプロジェクトについてお聞かせ下さい。

市長：河川に関連したプロジェクトとして、県道中津山国自転車道（愛称：メイプル耶馬サイクリングロード）の活性化について紹介します。メイプル耶馬サイクリングロードは、大正2年に創業し、昭和50年に廃線となった耶馬溪鉄道跡を大分県が整備し活用している全国有数の人気を誇る延長約36kmの自転車専用道路です。耶馬の



春（冠石野地区）



夏（第二山国川陸橋）



秋（耶馬溪支所裏）



冬（江洲地区）

谷々を流れる山国川に沿い自然と廃線のなごりが調和する本路線は、平成22年に日経新聞ランキング2位に選出されるなど、休日には多くの家族連れでにぎわい幅広く親しまれています。このメイプル耶馬サイクリングロードは、中津市にとって非常に重要な観光資源であり、山国川とともに耶馬溪の風景をかたちづくる重要な要素となっています。

また、メイプル耶馬サイクリングロード沿いでは、山国川の床上浸水対策特別緊急事業を実施中の箇所が点在しており、冠石野地区、平田地区、小友田地区等は河川とサイクリングロードが近接しており、拠点または河川へのアクセス地点として良好な場所となっています。特に、冠石野地区については、周遊できるように階段と坂路を設置し、階段及び坂路の天端付近には、駐輪場を設ける計画としており、今後もこのような河川とふれあえる拠点づくりを目指したいと考えております。

なお、沿線関係者で「メイプル耶馬サイクリングロード活性化会議」をたちあげており、国・県・市と行政の連携という貴重な関係を保ち、今後は、様々な取組を行って、国内外に向けてアピールしていきます。現在、中津市では世界的なサイクリング先進地である台湾台中市と交流を深めており、このメイプル耶馬サイクリングロードを核とする、台中市との「サイクルツーリズム及び観光友好交流の促進に関する協定」を平成29年2月に締結しました。

【河川に関連して特に力を入れていること】

聞き手：河川に関連して特に力を入れていることがあれば、お話を聞かせてください。

市長：昨年の3月に「山国川水系水防意識社会推進協議会」を山国川河川事務所が中心となり組織されました。河川の大規模災害に備え、河川整備や防災情報提供・防災教育・訓練などハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進するため山国川右岸の中津市、左岸の吉富町・上毛町、大分県、福岡県、気象庁大分地方気象台、国土交通省山国川河川事務所が連携し向こう5年間の取り組み方針を策定しています。ハード対策では、洪水を河川内で安全に流す対策として、堤防整備や河道の掘削を行う床上浸水対策特別緊急事業の完了の推進、またソフト対策では、想定できる最大規模の洪水を意識したハザードマップ作成、全ての住民に周知できる情報経路を作るなど国・県・市がお互い補完しながら自治体の枠を超えて山国川流域の防災力を高めていきたいと考えています。

【河川行政に対しての意見・感想等】

聞き手：最近の河川行政等について、何か感じておられることやご意見などがあればお聞かせ下さい。

市長：平成24年九州北部豪雨災害で甚大な被害を受け

た、名勝耶馬溪である競秀峰の景や歴史的建造物である青の洞門などを背景に有する「青地区」は日本新三景の中でも有数の観光スポットであります。豪雨災害の影響で観光客が減少しましたが、床上浸水対策特別緊急事業による周辺景観と一体とした堤防整備により、年間約170万人の観光客が訪れ水害からの復興を果たしており、今後も観光資源として期待できます。

床上浸水対策特別緊急事業として、国が現在整備中の耶馬溪平田・戸原地区について、「馬溪橋周辺整備マスタープラン」を策定、マスタープランをふまえ国・県・市が協働で「流木対策」「橋梁修復」「地域振興」「防災」4項目に対しアクションプランを策定、特に「地域振興」では、地域住民・学識者の意見も取り入れながら、床上浸水対策特別緊急事業を実施しており、整備後は新たな地域振興の拠点として発展を期待しております。

日本の川は勾配が急であり、流れが速く、災害が起こりやすいため、「安全・安心」がとても重要であると考えており、九州北部豪雨を受け、河川管理者である国及び大分県が、床上浸水対策特別緊急事業に取り組んで頂いており、大変だと思いますが、「安全・安心」のため、河川行政を力強く推進して頂きたいと思っております。

【次回市町村長のご紹介】

聞き手：最後になりますが、次回にインタビューをお願いする市町村長さんのご紹介をお願いします。

市長：宮崎県延岡市の首藤正治市長すどうまさはるをご紹介させていただきます。

延岡市首藤市長とは、昨年4月に東九州自動車道が、北九州～中津～大分～宮崎間が全線開通し、宮崎県・大分県の両県が、人流や物流などの面で大変活性化している中で、それぞれ宮崎県・大分県の玄関口でもあり、延岡市は「五ヶ瀬川」当市は「山国川」の一級河川が市内を流れ、川の恩恵を受ける反面、川の氾濫などにより甚大な被害も受け、お互いに水害を乗り越えてきた話をさせていただいています。河川とのかかわりや災害への備えなど有意義なお話がお伺いできると思ひ、推薦させていただきました。

聞き手：本日は、本当にありがとうございました。